

まちの遊学人

人とのつながりを大切に

西川 武仁さん (武里団地)



西川さんは子どもの頃、東京都向島に住んでいました。西川さんはお父様を通じて王貞治さんとも友人関係であるとのこと。

また色々なことに興味を持ち、非常に多趣味であります。

「仲間と楽しくやりたい」という言葉を何回も使いながらご自身の多趣味について丁寧に紹介しました。

まず紹介するのは吹矢です。週1回の活動で、10年間の経験があります。次にユニカール。自分の練習の他に、団地の子どもにもユニカールを教えています。

家庭菜園も近所の農家から150坪ほど借りて行っています。収穫した野菜からカレーを作り、子ども達に提供したこともあります。

また猟銃の資格もあり、仲間と北海道まで足を伸ばし狩りを楽しんだり、定期的にクレー射撃練習をしています。

また武里地区の「巡回スポーツ教室」に参加し、公民館、生涯学習市

民推進員との共催事業「バスで行く神明貝塚としょうゆ工場見学」にも参加するなど活動は多岐に渡ります。



盆栽と水石を趣味として

鈴木 安二さん (幸松)

鈴木さんが盆栽に出会ったのは昭和48年ごろ、東京上野のデパートで開催されていた盆栽展でした。会場の盆栽鉢はきれいに磨かれ、樹木はきちんと整枝され見事に圧倒されました。それを機に盆栽に夢中になり同好の人に呼びかけ、7人で一樹会という盆栽会を発足しました。水石と盆栽は車の両輪の関係でもあり、水石も始めました。水石は日本の伝統文化でもあり、伝統文化は後世まで伝えなければなりません。暇

を見ては水石の展示会場に出かけるようになり、知り合いもできて楽しくなりました。春日部盆栽会にも加入し、人と人との付き合いも楽しく、上の人からいろいろと教えられ勉強にもなりました。

これはどんな趣味の方にも言えることですが、展示会場に行けば誰か知り合いの人がいる、お互いの趣味の話が出来る、これは大変楽しいことです。



例えば、探石といって山や川や海に行って歩いて石を探ることがあります。これは宝物を探さうと一番楽しい時間です。春の川は新緑の中で、秋は紅葉の中で探石をします。屋は川原で弁当を食べます。これは老若関係なく楽しいことです。盆栽会の一樹会で水石展を行う

には無理があるため、石が好きな人の集まりである藤愛石同人を発足させました。ラフガーデン春日部2階コミュニティルームで第6回水石展を平成29年11月に開催しました。人生は長いようで過ぎてしまえば短く夢のようです。一生勉強です。気も若く持たねばなりません。

これからの若い人にはどんな趣味でも良いので一つ持っていたきたいです。仕事で大変かと思いますが、いずれ退職の 때가きた時趣味があればそのまま趣味に入り込め、自分の好きな道で遊学ができることは人生最大の幸せです。私も盆栽と水石の世界を生きがいとして自由に遊び学ぶ事により、知らない事が知る楽しみになり益々元気になっていきます。

